

中国宅配業界に値上げの波

西尾 麻里

日本では宅配最大手のヤマト運輸が10月1日から宅急便料金を値上げしました。その影響で、インターネット通販各社の送料値上げが相次いでいるという記事をネットニュースで見ました。実は中国でも、送料値上げのニュースが大きな話題となっています。1年で最も大きな売り上げを記録し、宅配市場を混乱させるネット最大のセール日「11月11日」を目前に、何が起きているのでしょうか。

<中国の速達（宅配）業者大手が送料値上げへ>

中国に速達業者は多く存在しますが、中でも、「中通快递」、「圓通速递」、「申通快递」、「韵达速递」、「順豊速運」、「百世快递」（※）の6社は全て上場企業で、速達市場シェアのほとんどをこの6社で占めています。送料値上げの先陣を切ったのは、「中通快递」でした。値上げの理由として、「輸送コストの上昇」、「人件費の上昇」、「材料価格の上昇」などを挙げていました。加えて、「サービスの質を上昇させ、顧客の利益を保障する」ための値上げだということを発表しました。これを受けてか、『韵达速递』が続くように価格調整の通知を出し、他の速達業者へもその波が押し寄せるようになりました。

※「快递」、「速递」、「速運」は「速達」の意味

<段ボールの奪い合い>

送料値上げの原因の一つである「材料価格の上昇」の中で、最も影響を受けたのが段ボールでした。

今年7月、中国の環境保護部と国家標準化管理委員会がWTOに提出した文書において、汚染の深刻な固形廃棄物の輸入を禁止するとしました。固形廃棄物の中には、段ボールの原料となる古紙も含まれているため、輸入古紙に頼っている段ボール業界に大きな影響を与えるだろうと言われていました。

年内に輸入禁止されると言われている古紙は、関税番号と呼ばれるHSコード「4707900090」にあたる未分類のもので、この他の輸入古紙は通常通り輸入できるという見方をしている地元紙があるものの、実際に中国国内に出回る輸入古紙が減少しており、それに伴って紙の価格がこの1年で7割ほど値上がりし、その影響で段ボール価格も7%~30%上昇したといえます。宅配業界内で段ボールの取り合い競争が激しいという話も聞きます。

筆者はネットショッピングをよく利用するのですが、そのほとんどが段ボールで届けられています。送料無料を謳っている店舗を利用していますが、よくよく思い返せば、商品単価が随分上がっていました。単なる物価の上昇だと思っていましたが、段ボールの価格上昇が大きな要因だったのかもしれない。

送料値上げの要因として、「サービスの質を上昇させ、顧客の利益を保障する」と既述しましたが、本当にサービスが良くなるのかも見ものです。荷物を放り投げられ、包装が崩れる等によく指摘される問題点が改善されるのであれば、少々の値上げも気にしないというのが民衆の真意ではないでしょうか。

<値上げの影響は速達業界だけにとどまらない？>

速達業者による送料の値上げは、他の物流市場、コールドチェーンなど関連業界へも影響が出る可能性があります。物流コストの変化が商品価格に直結しますので、中国ビジネスに携わる方は、同市場の動向を注視する必要があります。